

中央社保協全国総会が開かれる

～「軍拡より社会保障拡充を」「保険証の存続運動」を広げよう

7月5日（水）に、中央社保協の全国総会がオンライン兼用で開かれました。全国から100人以上が参加、和歌山県から佐藤事務局長が参加しました。

住江憲勇代表委員はあいさつの中で、健康保険証を24年秋に廃止する方針の撤回を求める運動が急速に広がっておりたかひをさらにすすめようと呼びかけました。

林事務局長は、23年度の運動方針を提案。「軍拡より社会保障拡充」署名運動の強化、健康保険証の存続運動をはじめ医療、介護、年金、生活保護などあらゆる分野での運動を前進させようと訴えました。

★後期高齢者、国保、介護保険料引き下げのための国に向けた全国的な運動を

討論は20人が行いました。和歌山県からは、後期高齢者医療、国保、介護保険料の引き下げ運動について発言。すべての市町村に対して要求書を提出し懇談をおこなってきたこと、その中で国の制度が根本にあるので、そこを変えていく運動が必要であることを痛感していると述べ、あらためて国に向けた全国的な運動を提起するよう要望しました。

- 神奈川県社保協～保険証廃止の中止を求めて9月議会に陳情。すべての市町村国保課と懇談する。後期高齢者医療窓口2割化反対署名は累計19万筆、高齢者人口の10%をこえた。
- 沖縄県社保協～自治体キャラバン、すべての市町村とオンラインも併用して懇談ができた。うるま市議会で18歳医療費無料化、給食無償化の意見書採択。1,500筆の署名を集めた。子ども医療費無償化を国の制度で、意見書が10自治体で。加齢性難聴への補助は8自治体で実施。
- 静岡県社保協～生存権裁判で支援する会を立ち上げ運動。勝利判決をかちとった。
- 京都社保協～八幡市で地域社保協を8月26日に結成。南丹市で準備会。8次医療計画の作成に際して新興感染症対策が焦点。国のしめつけで病院統廃合がすすむ危険あり。
- 埼玉県社保協～保険証廃止反対で宣伝活動。統一地方選挙で、保険料の引き下げ、学校給食無償化を訴えた。地域社保協が各会派に要請。これから自治体キャラバン始める。
- 鳥取県社保協～18歳未満子ども医療費の無料化が実現。
- 千葉県社保協～地域社保協15、準備会3。自治体キャラバンで、自治体ごとの10年間の回答を並べて追求している。
- 民医連～75歳以上の医療費2割化アンケートを実施。回答者のうち約半数が2割負担になった。2割になったひとの中でこれまで通り受診すると答えたのは約8割。受診控えが起きている。
- 年金者組合～“年金さげるな”から“年金あげろ”のスローガンに切り替えて運動。
- 全商連～インボイス中止を。724自治体議会に陳情。176議会で採択された。
- 全生連～生活保護裁判。21地裁判決、うち11で勝利判決。次は10月3日広島地裁判決。